

福島県の飯館村は、阿武隈

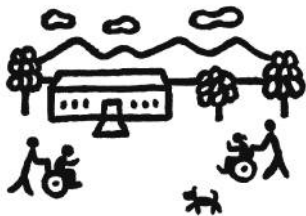
高原の豊かな自然に恵まれた美しい村で、私が留学していたスイスを思い出させます。

私は東京電力福島第1原発事故以来、この村の支援を続けています。きっかけは、2011年4月に福島 of 土壌や食物の放射線汚染の調査に行った際、菅野典雄村長にお目にかかったことでした。そのころ飯館村は、役場に隣接する特別養護老人ホームの入所者の避難を巡り、ホームを含む「全村避難」を指示する政府と対立していました。

訪問時、ホームには107人のお年寄りが入所していました。平均年齢は約80歳で、最高齢者は102歳。要介護度は平均4と重く、自力で動

がん社会 を診る

中川 恵一



イラスト・中村 久美

長期避難がもたらす健康被害

けない人が大半でした。

放射線被ばくによって、毎日発生するがん細胞の数が増え、免疫の監視をくぐり抜けて増殖を始めたとしても、10年

といった時間がかかりますから、老齢の入所者にとって避難のメリットはほとんどありません。幸い、ホームはそのまま維持されることになり、今も運営を継続しています。

りをする菊池製作所です。本社は東京都八王子市ですが、菊池功社長の出身地である飯館村に主力工場があります。ここでは十分な除染を行いな

がら、社員は村外に避難した上で通勤する形で操業を続けてきました。11年の10月には株式会社も果たし、避難地域ながら、天皇皇后両陛下のご視察も受けています。

私は産業医として関わっていますが、飯館村の工場で働く社員の健康状態に大きな変化はみられません。八王子市の工場の方が血糖値は高いくらいで、糖尿病が激増した福島県の他の避難者と大きく異なります。避難は生活環境に大きな変化をもたらし、結果的に健康に大きな影響を与えますが、職場の仲間と毎日仕事を続けたことがプラスに働いた可能性があります。

これからも村の支援を続けていくつもりです。

(東京大学病院准教授)